

授業科目(ナンバリング)	介護実習 I (DD213)			担当教員	大町 いづみ 浦 秀美 久田 貴幸		
展開方法	実習	単位数	4 単位	開講年次・時期	2 年・集中	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本実習では、地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。また、利用者の人間的ふれあいを通じて、利用者を理解し、支援する姿勢を養うことを目標とする。利用者個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、本実習では特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・社会福祉協議会の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践を行う。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とするために、介護技術の確認や多職種協働や連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割についても理解していく。また、介護や福祉と通して幸せを願い、利用者と共に生きる姿勢を身につける事ができることもねらいとしたい。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							④⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特養、老健、社協を利用している高齢者の特性を説明できる。</li> <li>・介護実習における積極的な姿勢について説明できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習評価</li> <li>・巡回指導</li> </ul>	50% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活リズムを把握したうえで、課題を指摘できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習評価</li> <li>・巡回指導</li> </ul>	5% 10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼節ある態度を利用者や施設職員に対し表現できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習評価</li> <li>・巡回指導</li> </ul>	10% 5%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設で働く職員の職種と役割を理解したうえで、協調できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回指導</li> </ul>	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護実習評価は、評価表の項目及び指導者所見、巡回指導時の学生の様子や実習指導者、実習指導者以外の施設職員から専任教員にて確認したことも反映させて行う。</li> <li>・ 評価項目は、専門職としての技能・知識を評価する項目として「施設理解」・「介護技術」・「コミュニケーション」・「観察・記録」・「ニーズの理解」が、援助者としての態度を評価する項目として「実習態度」・「チームワーク」・「礼節」が設けられている。それぞれの項目への所見が設けられており、総合的な指導者所見も設けられている。</li> <li>・ 介護実習評価表および、実習指導者と介護実習 I の教員とで協議し最終評価は出すものとする。</li> <li>・ 施設より返却された実習評価(特にコメント)や教員所感を実習終了後に学生にフィードバックし、次の実習への課題抽出に役立てる。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>介護実習 I は夏期・春期に 23 日間の実習を行う。</p> <p>実習先は特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等とし、本学と実習受け入れを契約している施設の実習受け入れ可能人数等から配属先を検討し配属する。</p> <p>実習中は、実習指導者や職員からの指導を随時受け、利用者とのコミュニケーションを図ったり、介護を実践する。高齢者との人間的な触れ合いの中で、日常生活や個性を理解しながら、初歩的な日常生活援助実習を行う。同時に、介護の機能や施設職員の役割についても学んでいく。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社</p> <p>参考書：長崎国際大学介護実習要綱</p>							

指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新介護福祉士養成講座 10『介護総合演習・介護実習』  
中央法規出版株式会社

授業外における学修及び学生に期待すること

実習は様々な生活支援技術を習得する場でもあります。社会生活を学ぶ場でもあります。生活支援技術の知識の確認を行うとともに、社会人としての礼儀・マナーを身につけて実習に望むことを期待しています。

また、実習中に多くの利用者に関わりだけでなく、施設職員とも関わりを多く持ち、コミュニケーション能力を向上させるための学びとして欲しいと考えています。ボランティアへの参画や世代の異なる人々との関わりを積極的に行い、本実習に臨んでください。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
夏期	1. 介護福祉士の業務を学ぶ 2. 介護福祉士が活躍する場を理解する 3. 多職種協働の実践を学ぶ 4. 地域における生活支援の実践	<p>実習時期：8月～9月、2～3月に計23日間（予定、変更の可能性もあり）</p> <p>実習配属先：特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・社会福祉協議会（予定、変更の可能性もあり）</p> <p>実習内容：以下の通りである（長崎国際大学介護実習要綱より抜粋）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実習前にオリエンテーションを受け、実習態勢を整える（実習生としての心得、事前学習がなされているか確認を行う）。</li> <li>② 実習態勢を整える（実習生としての心得、事前学修を行う）。</li> <li>③ 毎日、目標を明らかにして実習を始める。</li> <li>④ 積極的に利用者・職員とコミュニケーションを図る。</li> <li>⑤ 介護職員の仕事の流れを把握する。</li> <li>⑥ 施設の行事や活動プログラムに参加する。</li> <li>⑦ 必要に応じて指導者からの助言や指導を得る。</li> <li>⑧ 実習先の介護職以外の職種を把握する。</li> <li>⑨ 施設内の他の職種の役割や介護職との連携を理解する。</li> <li>⑩ 担当職員の指導のもと、基本的な生活支援技術を実践する。実践に先立ち、職員が実践する生活支援技術を見学し、介助を経験する。</li> <li>⑪ 実習先の行事や活動プログラムに参加する。</li> <li>⑫ 実習についてのカンファレンスを行い、必要に応じて指導者からの助言や指導を得る。</li> </ol> <p>本実習は、介護総合演習Ⅰと連動させながら実施する。</p>	<p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習計画に基づいた日々の目標を実習前に設定する。</li> </ul> <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者や施設職員からの指導内容を実習記録用紙に反映させ記録する。</li> <li>・実習指導者より返却された実習記録を見直し、指摘された部分やコメントを求められている部分について修正する。</li> <li>・今後の達成目標の変更や修正がないか検討する。</li> <li>・介護のまとめを作成する。</li> </ul>